

第 6 章

新しい豊かさ

第1節 将来の望ましい社会像

平成28年度からスタートした「みえ県民力ビジョン・第二次行動計画」（以下、「第二次行動計画」という。）では、幸福実感日本一の三重をめざし、「新しい豊かさ」を享受できる三重づくりに取り組むこととしています。

この章では、第二次行動計画の中で示した「新しい豊かさ」の考え方をベースに、さらに政策議論を深められるよう、今回の調査で新たに設問を設け、お聞きした、「新しい豊かさ」に関しての県民の皆さんの意識について、分析した結果をまとめています。

第二次行動計画の中では、「新しい豊かさ」を享受できる、時代の分水嶺の先のめざすべき三重の姿として、誰もがどこに住んでいても、次のような暮らしを営むことができる社会のイメージを示しました。

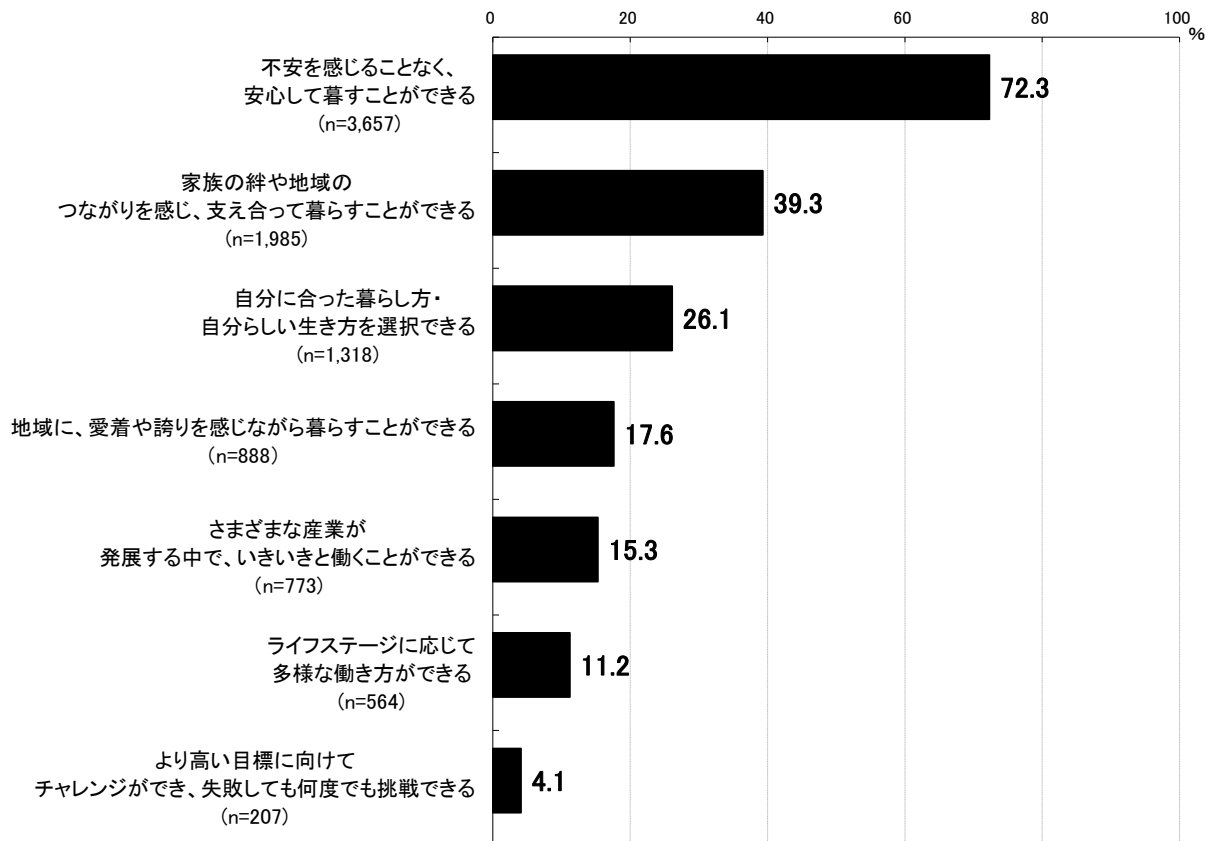
- ① 将来に対して不安を感じることなく、安心して暮らすことができる。
- ② 自分に合った暮らし方・自分らしい生き方を選択できる。
- ③ ライフステージに応じて多様な働き方ができる。
- ④ より高い目標に向けてチャレンジができ、失敗しても何度でも挑戦できる。
- ⑤ 家族の絆や地域のつながりを感じ、支え合って暮らすことができる。
- ⑥ 美しい自然や多彩な文化などの魅力あふれる地域に、愛着や誇りを感じながら暮らすことができる。
- ⑦ 活力のあるさまざまな産業が発展する中で、めざす仕事に就き、いきいきと働くことができる。

第1節では、「新しい豊かさ」を享受できる、将来の社会や暮らしのイメージについて、皆さんが、どのような暮らしを強く望んでいるのか、幸福感との関わりはどうか、どのような属性の人がどのような暮らしを強く望んでいるのかを、把握します。

(1) 将来の望ましい社会についての県民の皆さんの意識

「あなたは、将来どんな暮らしができる社会（三重県）が望ましいと思いますか」と質問（2つまで回答）したところ、「不安を感じることなく、安心して暮らすことができる」が72.3%で最も高く、次いで「家族の絆や地域のつながりを感じ、支え合って暮らすことができる」（39.3%）、「自分に合った暮らし方・自分らしい生き方を選択できる」（26.1%）の順となっています（図表6-1-1）。

図表6-1-1 将来の望ましい社会の各選択肢について選択した人の割合（回答者全体n=5,055）

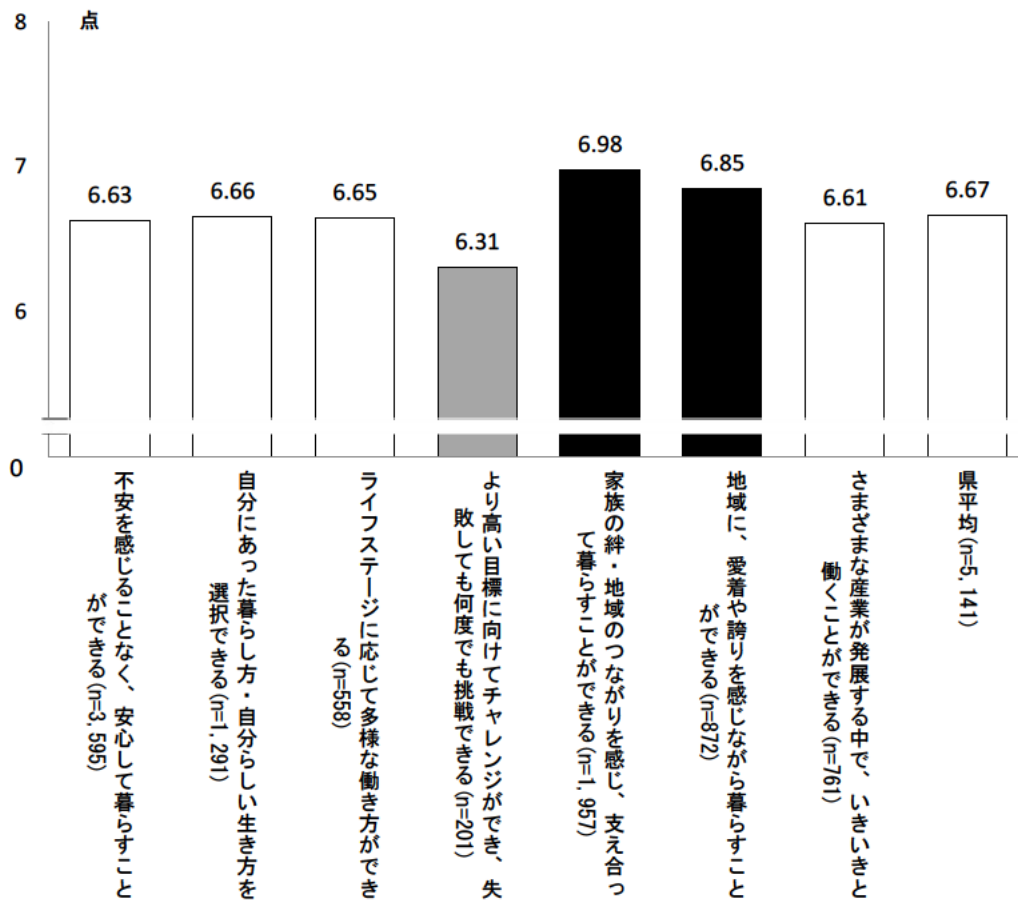


※各選択肢の回答割合順に記載していますが、「地域に、愛着や誇りを感じながら暮らすことができる」の回答割合（17.6%）と「さまざまな産業が発展する中で、いきいきと働くことができる」の回答割合（15.3%）は、統計的に有意な差は認められません。

(2) 幸福感とのクロス

将来の望ましい社会についての設問における各選択肢ごとに、選択した人の幸福感の平均値をみると、県平均 6.67 点に比べ、「家族の絆や地域のつながりを感じ、支え合って暮らすことができる」が 6.98 点、「地域に、愛着や誇りを感じながら暮らすことができる」が 6.85 点で高く、「より高い目標に向けてチャレンジができ、失敗しても何度でも挑戦できる」が 6.31 点で低くなっています（図表 6-1-2）。

図表 6-1-2 将来の望ましい社会の各選択肢について選択した人の幸福感の平均値



※幸福感の質問に回答していない人がいるため、各選択肢のnが、図表 6-1-1 より小さい数値となる。

【凡例】

- 黒色：幸福感の平均値が県平均より高く、かつ統計的に有意な差がある属性項目
- 灰色：幸福感の平均値が県平均より低く、かつ統計的に有意な差がある属性項目
- 白色：幸福感の平均値が県平均と比べ、統計的に有意な差が認められない属性項目

(3) 将来の望ましい社会の属性別の状況

図表 6-1-3 将来の望ましい社会(属性別の回答割合(%))

	合計 (n)	不安を感じることなく、安心して暮らすことができる	家族の絆や地域のつながりを感じ、支え合って暮らすことができる	自分に合った暮らし方・自分らしい生き方を選択できる	地域に、愛着や誇りを感じながら暮らすことができる	さまざまな産業が活躍でき、働きやすい環境が整っている	ライフステージに応じて多様な働き方ができる	より高い目標に向けてチャレンジができ、失敗しても何度でも挑戦できる	
全体	5,055	72.3	39.3	26.1	17.6	15.3	11.2	4.1	
地域	北勢	2,272	72.4	38.8	26.6	17.6	14.5	11.3	4.1
	伊賀	485	73.4	41.4	25.6	14.2	14.4	14.2	4.1
	中南勢	1,407	72.8	39.7	25.3	18.5	14.9	10.7	4.3
	伊勢志摩	672	70.8	39.1	26.3	19.0	17.3	10.0	3.1
	東紀州	219	70.8	37.0	26.0	14.6	21.9	9.6	5.0
性別	男性	2,074	70.7	35.3	26.0	22.5	16.3	9.3	5.8
	女性	2,867	73.7	41.8	26.0	14.0	14.7	12.6	3.0
年齢	20歳代	364	64.3	32.4	32.1	21.4	12.1	15.7	7.4
	30歳代	616	69.8	33.4	24.0	17.2	17.4	17.7	7.0
	40歳代	837	75.7	33.2	23.4	15.5	17.6	15.7	4.9
	50歳代	865	74.6	34.5	28.2	15.4	18.8	12.7	3.7
	60歳代	1,174	73.9	43.2	26.4	17.1	14.0	10.0	2.9
	70歳以上	1,067	70.9	48.5	24.7	20.4	12.4	2.8	2.6
主な職業	農林水産業	126	68.3	41.3	25.4	25.4	16.7	6.3	4.8
	自営業・自由業	447	66.7	39.6	27.7	20.1	18.6	9.4	6.3
	正規職員	1,233	69.8	32.6	27.1	20.8	17.8	14.0	5.0
	パート・アルバイト・派遣	980	76.4	38.2	23.6	12.2	18.7	14.3	4.3
	その他の職業	240	71.3	29.6	30.8	18.3	15.8	15.0	2.9
	学生	59	52.5	37.3	27.1	25.4	10.2	27.1	11.9
	専業主婦・主夫	800	76.5	46.3	26.6	12.0	13.0	11.6	2.6
無職	1,040	73.7	43.8	24.7	20.2	10.1	4.4	3.1	
配偶関係	未婚	690	67.0	26.7	32.2	20.1	15.7	13.6	8.1
	有配偶	3,625	73.6	41.2	25.2	17.0	15.4	11.4	3.3
	離別・死別	592	72.6	40.4	25.3	17.2	14.2	7.8	3.5
世帯類型	単独世帯	403	70.7	32.3	32.3	18.4	15.9	6.5	5.7
	一世代世帯	1,503	74.5	42.0	25.5	17.0	15.1	8.7	2.9
	二世帯世帯	2,303	72.7	36.8	25.7	17.6	15.1	13.5	4.7
	三世帯世帯	633	68.6	44.2	24.6	17.9	17.2	12.3	4.3
世帯収入	100万円未満	230	71.7	42.6	23.9	14.8	11.3	6.5	6.1
	~200万円未満	499	73.9	41.9	26.1	17.6	13.2	6.4	2.8
	~300万円未満	744	71.5	41.7	25.8	18.0	15.9	9.3	3.5
	~400万円未満	702	72.9	40.2	28.2	17.5	14.5	10.4	4.3
	~500万円未満	572	74.5	37.4	24.0	15.6	17.1	11.9	4.5
	~600万円未満	546	74.9	37.0	26.4	16.7	15.8	15.4	4.0
	~800万円未満	647	71.1	38.0	24.9	20.7	15.3	14.4	3.7
	~1,000万円未満	344	70.9	38.7	25.9	15.4	20.9	13.7	4.7
	1,000万円以上	349	63.6	39.0	28.4	24.1	16.3	13.8	4.3

※回答割合(%)は、不明(未記入)を分母から除いて算出している。

【凡例】
 黒色：割合が県平均より高く、かつ統計的に有意な差がある属性項目
 灰色：割合が県平均より低く、かつ統計的に有意な差がある属性項目
 白色：割合が県平均と比べ、統計的に有意な差が認められない属性項目

将来の望ましい社会別で、地域、性別、年代、主な職業、配偶関係、世帯類型、世帯収入の属性の状況を見ると、特徴や差がみられました。主なものは以下のとおりです（将来の望ましい社会別に、同一属性の中で5ポイント以上の統計的に有意な差があるものを中心に記載しています）（図表6-1-3）。

◆「不安を感じることなく、安心して暮らすことができる」

全ての属性において最も高い割合となっています。

年代別では、40歳代（75.7%）が最も高く、20歳代（64.3%）で最も低くなっており、11.4ポイントの差があります。

主な職業別では、専業主婦・主夫（76.5%）及びパート・バイト・派遣（76.4%）が高く、学生（52.5%）、自営業・自由業（66.7%）、正規職員（69.8%）が低くなっており、最も低い割合の学生とは、20ポイントを超える差があります。

世帯類型別では、一世代世帯（74.5%）が最も高く、三世代世帯（68.6%）が最も低くなっています。

◆「家族の絆や地域のつながりを感じ、支え合って暮らすことができる」

性別では、女性（41.8%）が、男性（35.3%）より高くなっています。

年代別では、20歳代～50歳代は30%台で低く、60歳代以上は40%台で高くなっており、10ポイントを超える差があります。60歳を境に差がはっきり分かれていることが特徴的です。

主な職業別では、専業主婦・主夫（46.3%）、無職（43.8%）という職業をもっていない人が高く、正規職員（32.6%）、その他の職業（29.6%）で低く、10ポイントを超える差があります。

世帯類型別では、一世代世帯（42.0%）、三世代世帯（44.2%）が高く、単独世帯（32.3%）、二世帯世帯（36.8%）が低くなっています。

◆「自分に合った暮らし方・自分らしい生き方を選択できる」

年代別では、20歳代（32.1%）が最も高く、40歳代（23.4%）が最も低くなっています。

◆「地域に、愛着や誇りを感じながら暮らすことができる」

性別では、男性（22.5%）が女性（14.0%）より高く、8.5ポイントの差があり、他の選択肢に比べ男女の差が最も大きくなっています。

年代別では、20歳代（21.4%）と70歳以上（20.4%）が高く、50歳代（15.4%）が最も低くなっています。

主な職業別では、農林水産業（25.4%）、正規職員（20.8%）、無職（20.2%）が高くなっています。パート・バイト・派遣（12.2%）、専業主婦・主夫（12.0%）は低くなっており、最も高い農林水産業とは、10ポイントを超える差があります。

◆「さまざまな産業が発展する中で、いきいきと働くことができる」

年代別では、50歳代（18.8%）が最も高く、20歳代（12.1%）、70歳以上（12.4%）が低くなっています。

主な職業別では、パート・バイト・派遣（18.7%）、自営業・自由業（18.6%）、正規職員（17.8%）が高く、学生（10.2%）、専業主婦・主夫（13.0%）が低くなっており、職業をもっている人が、比較的、高くなっています。

世帯収入別では、800万円以上1,000万円未満（20.9%）が最も高く、100万円未満（11.3%）が最も低くなっています。

◆「ライフステージに応じて多様な働き方ができる」

年代別では、20歳代～40歳代が15%～17%台と高く、50歳代～60歳代は10%～12%台、70歳以上は2.8%と低くなっており、概ね年代が若くなるほど、割合が高くなる傾向です。また、20歳代～40歳代と70歳代以上の回答割合は10ポイントを超える差があります。

主な職業別では、学生（27.1%）が最も高く、次いでパート・バイト・派遣（14.3%）、正規職員（14.0%）の順で高くなっています。農林水産業（6.3%）、無職（4.4%）は低くなっており、学生と比べ、20ポイントを超える差があります。

配偶関係別では、未婚（13.6%）が高く、離別・死別（7.8%）が低くなっています。

世帯類型別では、二世帯世帯（13.5%）が高く、単独世帯（6.5%）、一世帯世帯（8.7%）が低くなっています。

世帯収入別では、500万円以上800万円未満は、14%～15%台で高く、300万円未満では10%未満と低くなっています。

◆「より高い目標に向けてチャレンジができ、失敗しても何度でも挑戦できる」

年代別では、20歳代～30歳代は7%台、40歳代～50歳代は、3～4%台、60歳以上は、2%台であり、年代が若いほど、割合が高くなる傾向です。

主な職業別では、学生（11.9%）が最も高く、無職（3.1%）、専業主婦・主夫（2.6%）が低くなっています。

性別や年代別という属性別で、どのような将来の社会や暮らしを望ましいと考えているのか、その状況を見ると、特徴がみられました。主なものは以下のとおりです（県平均と比べ、高い回答割合であったものを記載しています）（図表6-1-3）。

【性別】

性別では、男性は、「地域に、愛着や誇りを感じながら暮らすことができる」、「より高い目標に向けてチャレンジができ、失敗しても何度でも挑戦できる」が県平均に比べ、高くなっています。

女性は、「家族の絆や地域のつながりを感じ、支え合って暮らすことができる」、「ライフステージに応じて多様な働き方ができる」が県平均に比べ、高くなっています。

【年代別】

年代別では、20歳代は、「自分に合った暮らし方・自分らしい生き方を選択できる」、「地域に、愛着や誇りを感じながら暮らすことができる」、「ライフステージに応じて多様な働き方ができる」、「より高い目標に向けてチャレンジができ、失敗しても何度でも挑戦できる」、が県平均に比べ高くなっています。

30歳代は、「ライフステージに応じて多様な働き方ができる」、「より高い目標に向けてチャレンジができ、失敗しても何度でも挑戦できる」が県平均に比べ高くなっています。

40歳代は、「不安を感じることなく、安心して暮らすことができる」、「ライフステージに応じて多様な働き方ができる」が県平均に比べ高くなっています。

50歳代は、「さまざまな産業する中で、いきいきと働くことができる」が県平均に比べ、高くなっています。

60歳代は、「家族の絆や地域のつながりを感じ、支え合って暮らすことができる」が県平均に比べ高くなっています。

70歳以上は、「家族の絆や地域のつながりを感じ、支え合って暮らすことができる」、「地域に愛着や誇りを感じながら暮らすことができる」が県平均に比べ高くなっています。

■将来の望ましい社会像に関する考察

- 全体では、「不安を感じることなく、安心して暮らすことができる」が最も多く選択され、その回答割合は、7割を超えました。地域、性別、年代、主な職業、配偶関係、世帯収入など全ての属性でみても、最も多く選択されました。多くの県民が、安心して暮らすことができる社会を望んでいることがわかりました。
- どのような暮らしを強く望んでいるのか、属性ごとの傾向をみると、約4割の方が選択し、選択した方々の幸福度の平均値が最も高かった「家族の絆や地域のつながりを感じ、支え合って暮らすことができる」については、女性が男性に比べ回答割合が高いという性別の差、60歳を境に、60歳以上は高く、60歳未満は低くなるという年代間の差、職業を持っていない人で高く、職業を持っている人で低くなるなど、属性で異なる傾向がみられました。また、「さまざまな産業が発展する中で、いきいきと働くことができる」は、パート・バイト・派遣、自営業・自由業、正規職員の回答割合が高く、学生、専業主婦・主夫が低くなっており、職業をもつ人が、より選択する傾向があります。
- 「ライフステージに応じて多様な働き方ができる」、「より高い目標に向けてチャレンジができ、失敗しても何度でも挑戦できる」は、他の年代に比べ、20歳代～30歳代で選択される割合が高く、「自分に合った暮らし方・自分らしい生き方を選択できる」、「地域に、愛着や誇りを感じながら暮らすことができる」は、20歳代で選択される割合が高くなっています。
全体では選択された割合が比較的低いものの、将来を担う若い世代が望む社会や暮らしを実現していくことは、大事であると考えます。
- 今後の課題として、例えば、「不安を感じることなく、安心して暮らすことができる」が最も高い割合で選択されましたが、県民の皆さんがどういうところに不安を感じているのか、あるいは、幸福度の平均値が最も高かった「家族の絆や地域のつながりを感じ、支え合って暮らすことができる」を選択した人の幸福度が高い要因は何かなどについて、さらに検討を重ねていく必要があります。

第2節 新しい豊かさの実現に向けて

第二次行動計画では、「新しい豊かさ」を享受できる三重づくりに向けて、「新しい豊かさ」の視点から、施策を構築し、展開することとしています。施策展開にあたっての参考とするため、限られた設問数の中で質問内容を検討し、P157で掲載した「新しい豊かさ」を享受できる社会のイメージのうち、

④「より高い目標に向けてチャレンジができ、失敗しても何度でも挑戦できる」

⑥「美しい自然や多彩な文化などの魅力あふれる地域に、愛着や誇りを感じながら暮らすことができる」

に関して、「挑戦できる環境」及び「住んでいる地域に愛着を感じる要素」についての質問を設けることとしました。第2節では、その質問に関する分析結果をまとめています。

1. 挑戦できる環境づくり

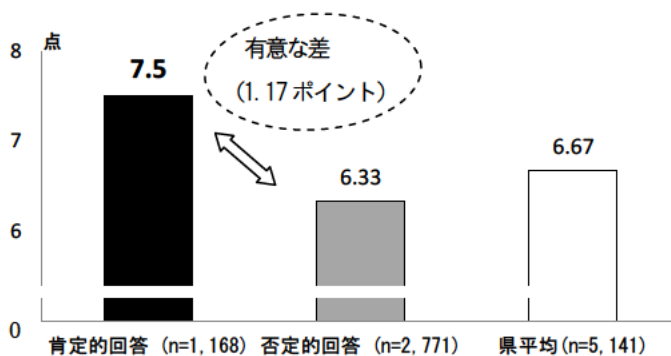
「新しい豊かさ」を享受できる社会のイメージ④「より高い目標に向けてチャレンジができ、失敗しても何度でも挑戦できる」に関して、夢や希望に向けて挑戦できる環境が整っているのか、その現状を把握するとともに、そのために必要なことは何か、県民の皆さんの意識を把握、分析し、今後の参考とします。

(1) 幸福感との相関関係

「あなたの周りには、かなえない夢や希望にむけて挑戦できる環境が整っていると思いますか」と質問したところ、肯定的回答をした人は、否定的回答をした人に比べ、幸福感の平均値が、1.17ポイント高くなっています（図表6-2-1）。

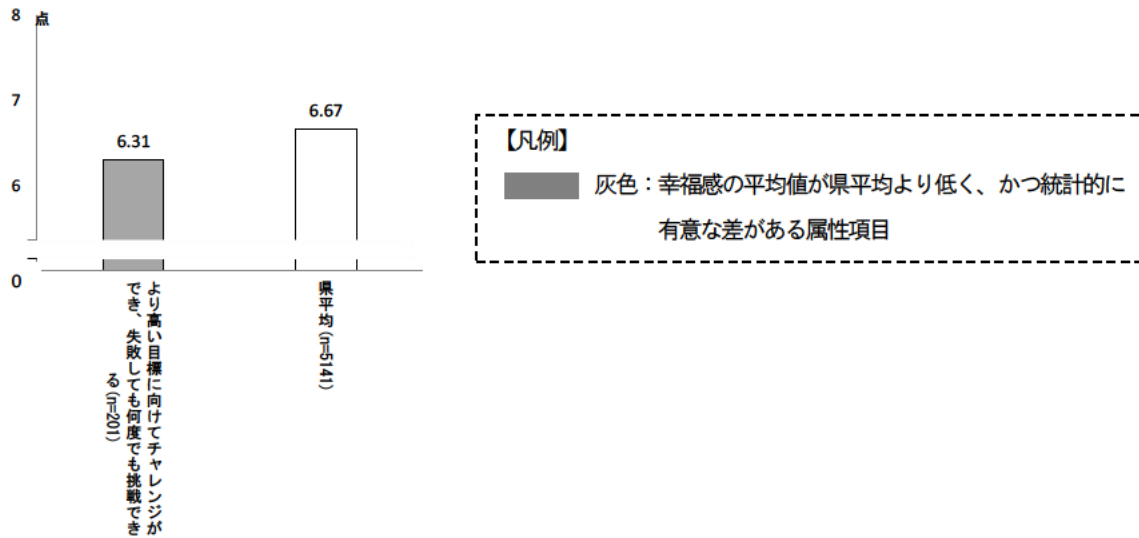
「挑戦できる環境が整っているか」の回答と幸福感の相関係数は、0.295であり、弱い（0.2~0.3）相関があります。

図表6-2-1 挑戦できる環境が整っているかとの質問に肯定的・否定的な回答の人の幸福感の平均値



また、将来の望ましい社会に関する質問で「より高い目標に向けてチャレンジができ、失敗しても何度でも挑戦できる」を選択した人に絞って、幸福感の平均値をみると、「より高い目標に向けてチャレンジができ、失敗しても何度でも挑戦できる」は、6.31 点で県平均に比べ、低くなっています（図表 6-2-2）。

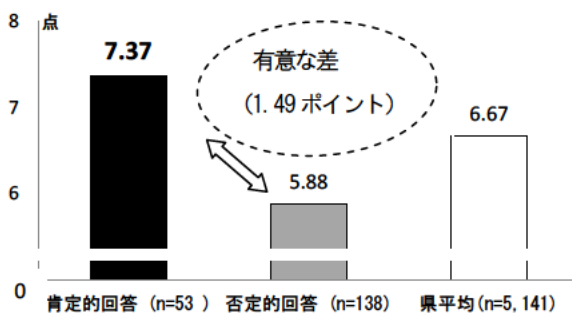
図表 6-2-2 将来の望ましい社会の各選択肢について選択した人の幸福感の平均値



将来の望ましい社会に関する質問で「より高い目標に向けてチャレンジができ、失敗しても何度でも挑戦できる」を選択した人に絞って、「あなたの周りには、かなえない夢や希望にむけて挑戦できる環境が整っていると思いますか」の質問の回答をみると、肯定的回答をした人は、否定的回答をした人に比べ、幸福感の平均値は 1.49 ポイント高くなっています（図表 6-2-3）。

「より高い目標に向けてチャレンジができ、失敗しても何度でも挑戦できる」を選択した人に絞って「挑戦できる環境が整っているか」の回答と幸福感の相関関係をみると、相関係数は 0.371 であり、ある程度 (0.3~0.4) の相関があります。

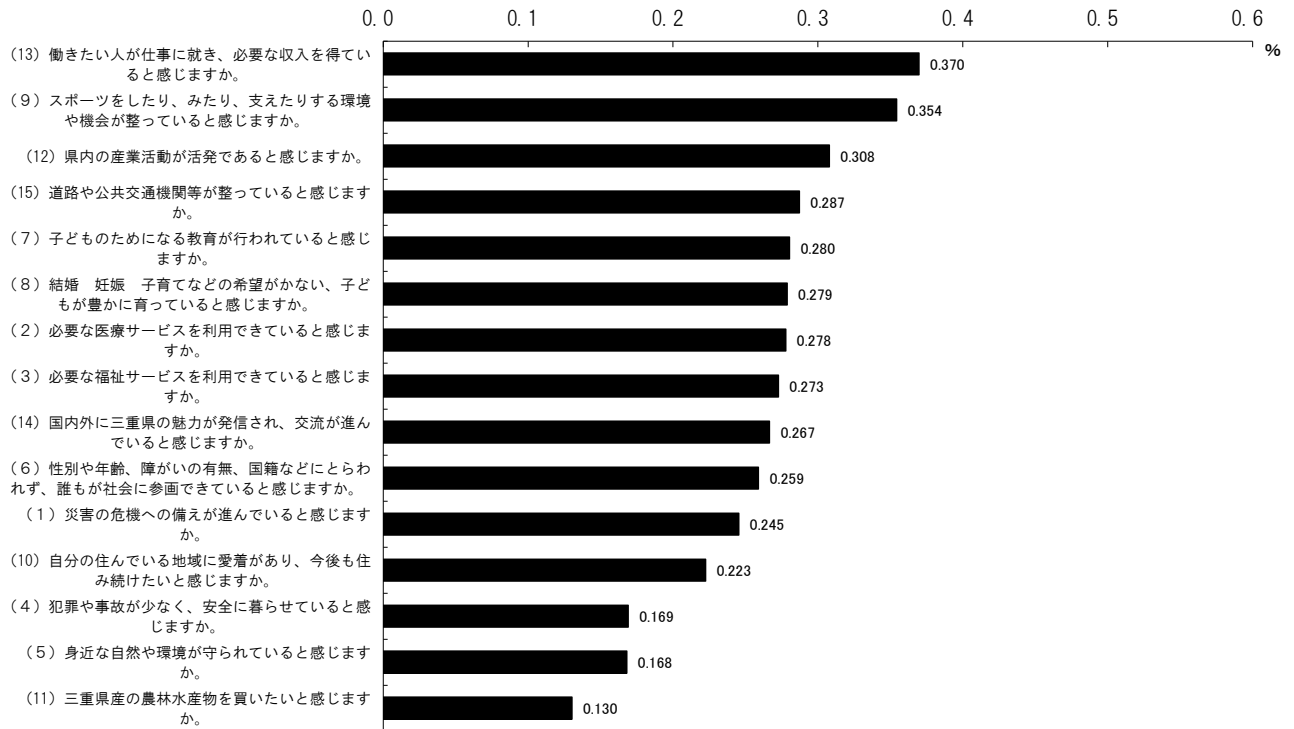
図表 6-2-3 挑戦できる環境が整っているかとの質問に肯定的・否定的な回答の人の幸福感の平均値
 (「より高い目標に向けてチャレンジできる」を選択した人のみ)



(2) 幸福実感指標との相関関係

「あなたの周りには、かなえたい夢や希望にむけて挑戦できる環境が整っていると思いますか」との質問の回答と、15の幸福実感指標の相関関係を比べました。「働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている」、「スポーツをしたり、みたり、支えたりする環境や機会が整っている」、「県内の産業活動が活発である」について、ある程度（0.3～0.4）の相関があります（図表6-2-4）。

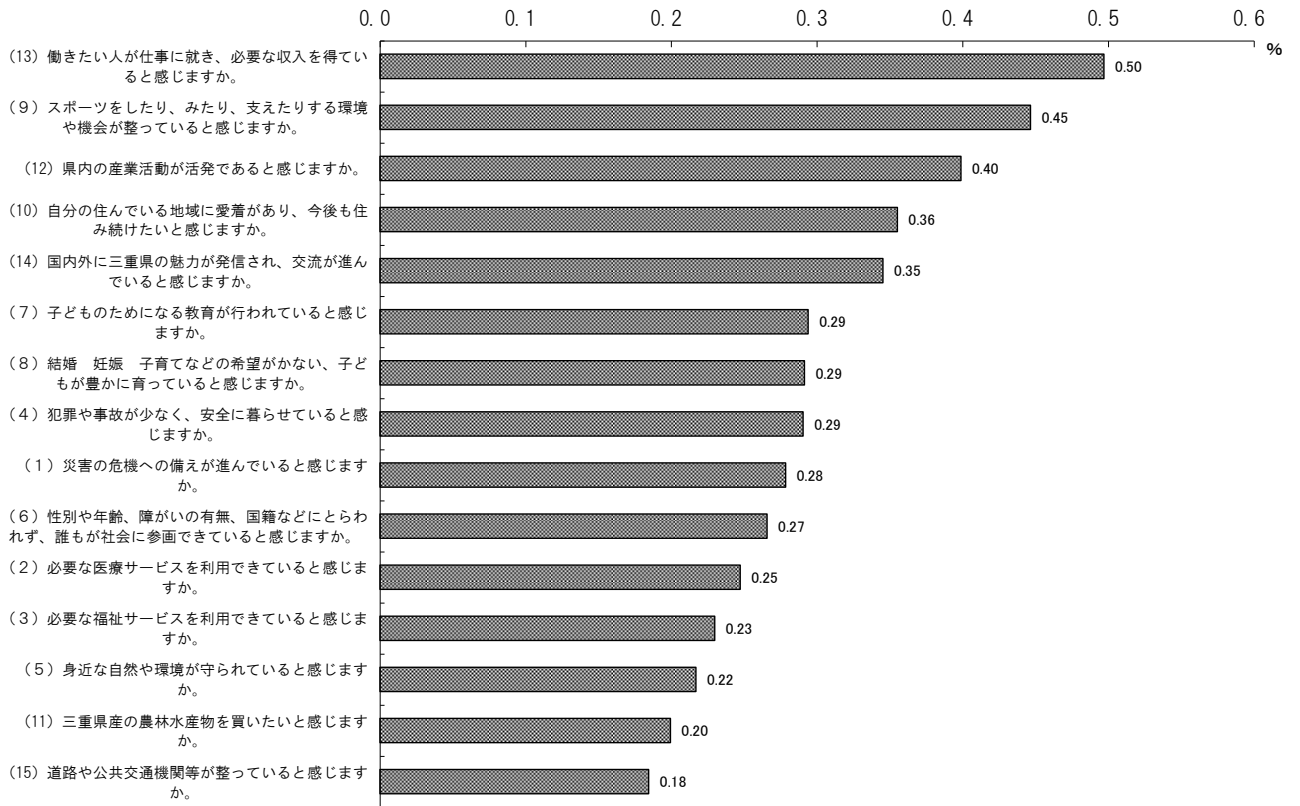
図表6-2-4 挑戦できる環境が整っているかとの質問の回答と幸福実感指標との相関係数



また、将来の望ましい社会に関する質問で「より高い目標に向けてチャレンジができ、失敗しても何度でも挑戦できる」を選択した人に絞って、「挑戦できる環境が整っているか」との質問の回答と、15の幸福実感指標の相関関係を比べました（図表6-2-5）。

「働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている」、「スポーツをしたり、みたり、支えたりする環境や機会が整っている」については中程度（0.4～0.5）の相関があり、「県内の産業活動が活発である」、「自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい」、「国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる」については、ある程度（0.3～0.4）の相関がみられました。

図表 6-2-5 「より高い目標に向けてチャレンジできる」を選択した人について幸福実感指標との相関係数
 (挑戦できる環境が整っているかとの質問の回答と幸福実感指標との相関)



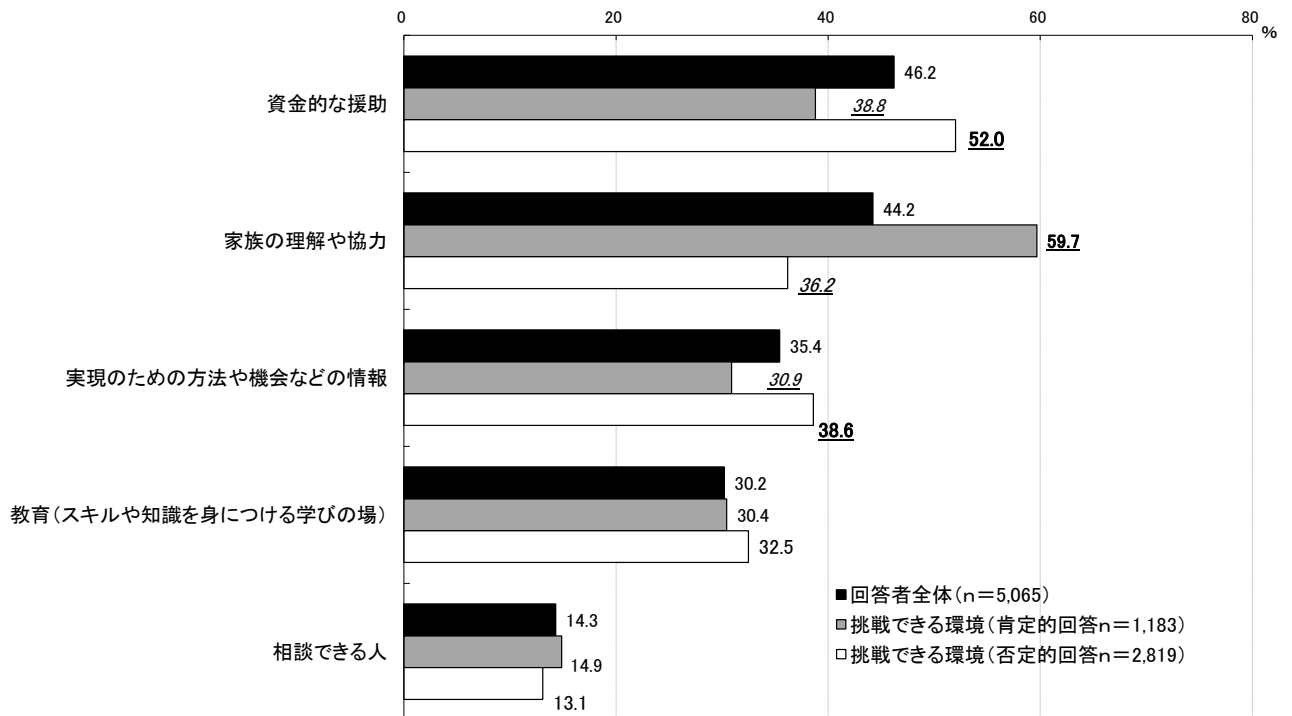
(3) 挑戦できる環境として必要な事項

「あなたの周りには、かなえたい夢や希望にむけて挑戦できる環境が整っていると思いますか」との質問に肯定的な回答をした人(n=1,183)や、否定的な回答をした人(n=2,819)を対象に、挑戦できる環境として必要な事項は何かについて、属性別に分析をします。

① 回答者全体の選択状況

挑戦できる環境として必要な事項（自分の意欲や努力以外）について、回答者全体では、「資金的な援助」という回答が最も多くなっています。挑戦できる環境が整っているかとの質問に肯定的な回答をした人は、「家族の理解や協力」という回答が最も多く、否定的な回答をした人は、「資金的な援助」という回答が最も多くなっています（図表 6-2-6）。

図表 6-2-6 挑戦できる環境として必要な事項

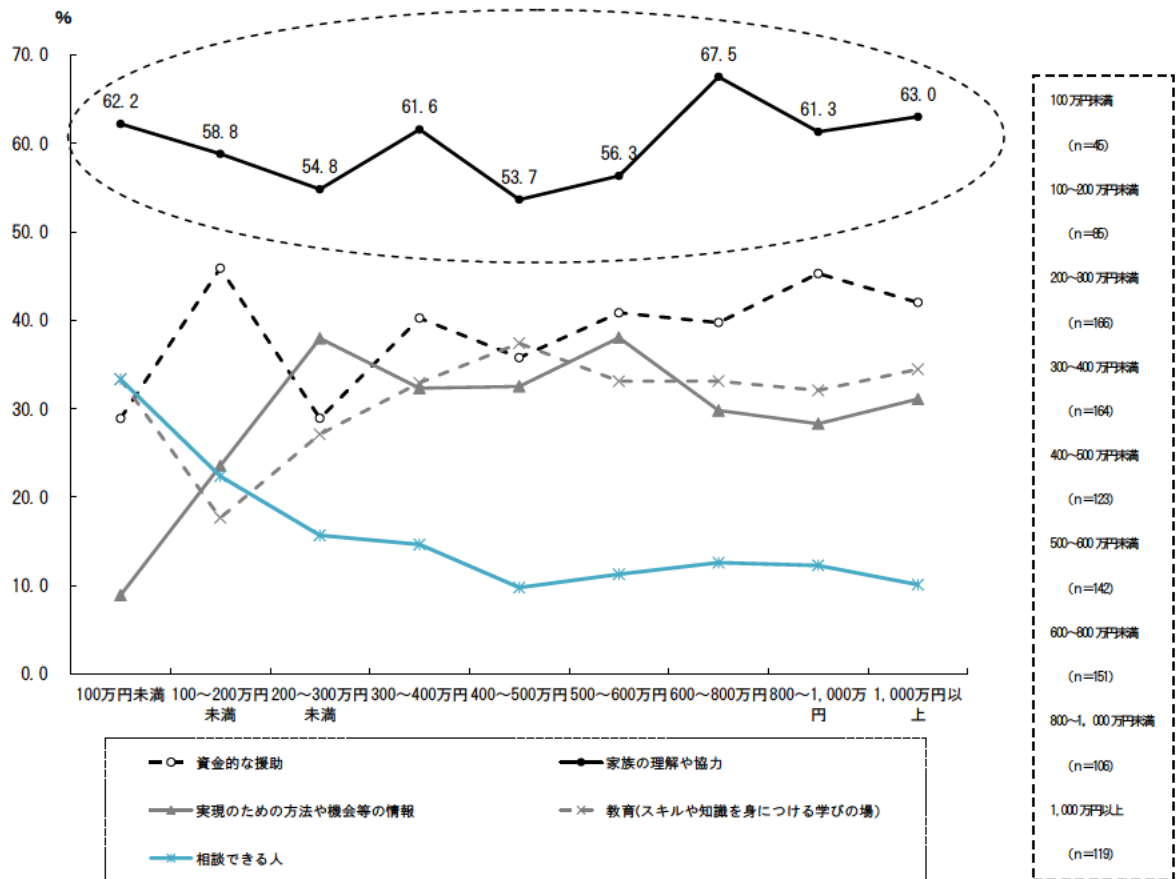


【凡例】
太字の数字：各項目の割合が、回答者全体の割合より高く、かつ統計的に有意な差がある属性項目
斜字の数字：各項目の割合が、回答者全体の割合より低く、かつ統計的に有意な差がある属性項目

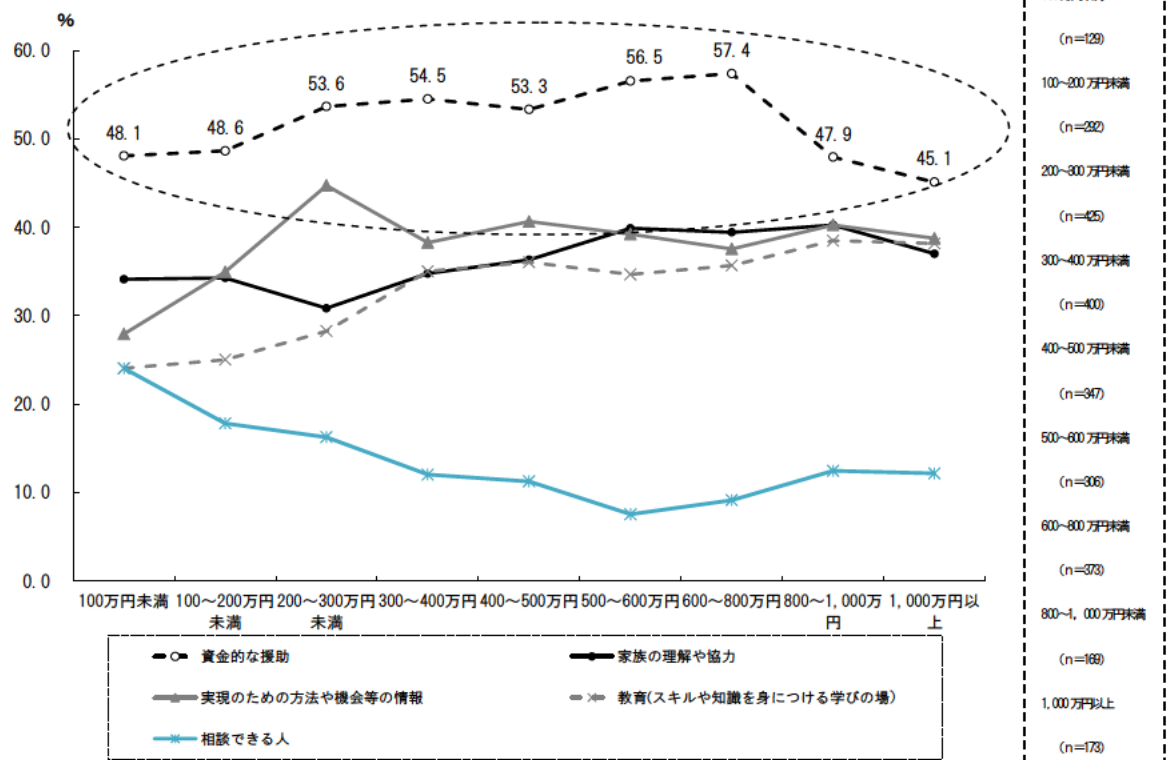
② 収入とのクロス分析

挑戦できる環境として必要な事項（自分の意欲や努力以外）を収入別で見ると、収入の高低にかかわらず（全ての収入区分で）、挑戦できる環境が整っているかとの質問に肯定的な回答をした人は、「家族の理解や協力」という回答が最も多く、否定的な回答をした人は、「資金的な援助」という回答が最も多くなっています（図表 6-2-7、図表 6-2-8）。

図表 6-2-7 挑戦できる環境として必要な事項 (肯定的回答 収入別)



図表 6-2-8 挑戦できる環境として必要な事項 (否定的回答 収入別)

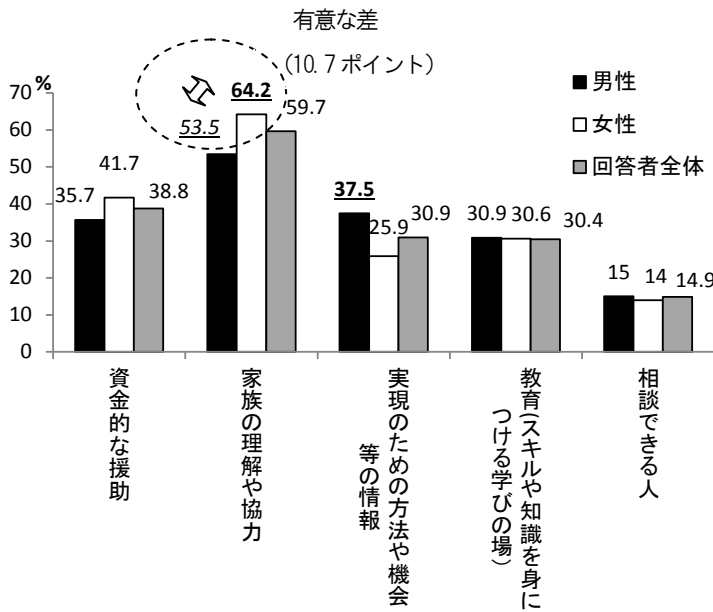


③性別とのクロス分析

挑戦できる環境として必要な事項（自分の意欲や努力以外）を性別でみると、挑戦できる環境が整っているかについて肯定的か否定的にかかわらず、「家族の理解や協力」の割合のみが、回答者の全体の割合に比べ、男性は統計的に有意に低く、女性は統計的に有意に高くなりました（図表6-2-9、図表6-2-10）。

図表6-2-9 挑戦できる環境として必要な事項（肯定的回答 性別）

（男性n=488 女性n=664 回答者全体n=1,183）



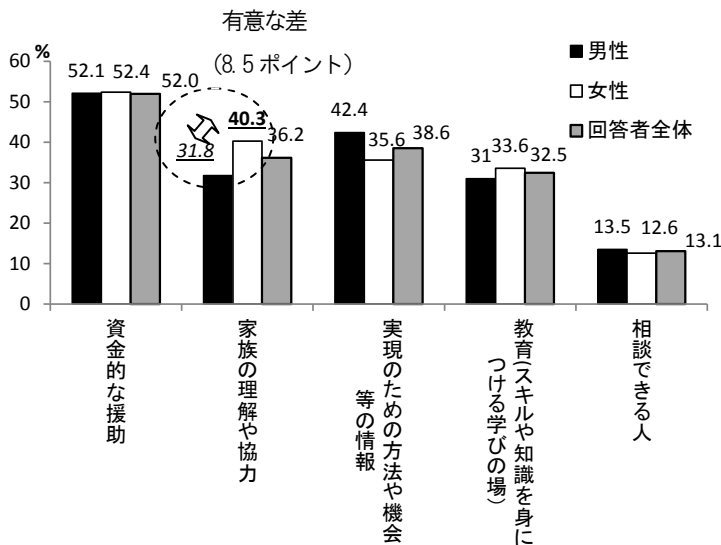
【凡例】

太字の数字：各項目の割合が、挑戦できる環境が整っていると「思う」及び「どちらかといえば思う」（肯定的）と回答した人全体（全数）の場合の割合より高く、かつ統計的に有意な差がある属性項目

斜字の数字：各項目の割合が、挑戦できる環境が整っていると「思う」及び「どちらかといえば思う」（肯定的）と答えた人全体（全数）の場合の割合より低く、かつ統計的に有意な差がある属性項目

図表6-2-10 挑戦できる環境として必要な事項（否定的回答 性別）

（男性n=1,219 女性n=1,532 回答者全体n=2,819）



【凡例】

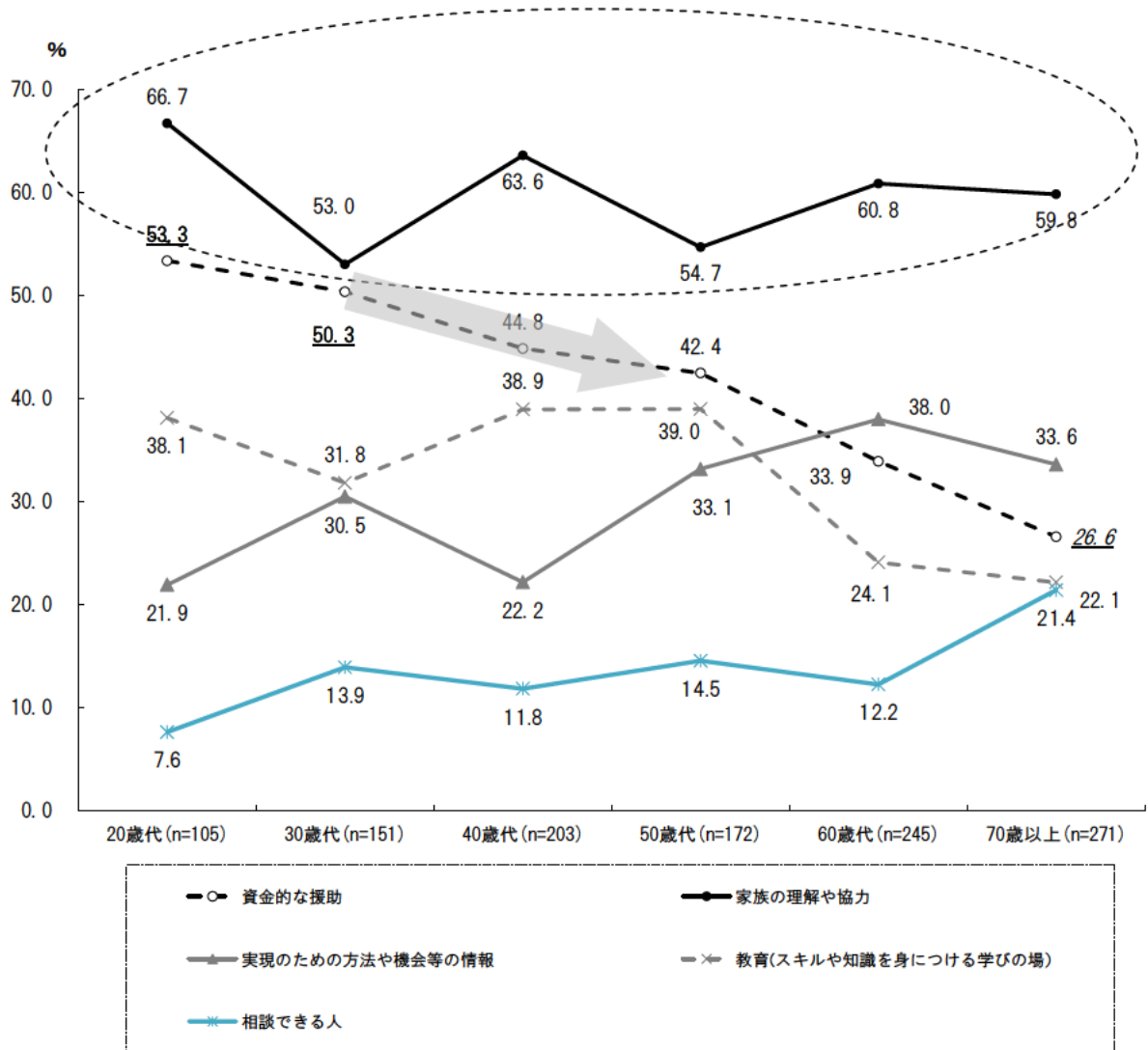
太字の数字：各項目の割合が、挑戦できる環境が整っていると「思わない」及び「どちらかといえば思わない」（否定的）と回答した人全体（全数）の場合の割合より高く、かつ統計的に有意な差がある属性項目

斜字の数字：各項目の割合が、挑戦できる環境が整っていると「思わない」及び「どちらかといえば思わない」（否定的）と回答した人全体（全数）の場合の割合より低く、かつ統計的に有意な差がある属性項目

④年代別とのクロス分析

挑戦できる環境が整っているかについて肯定的回答の人は、年代にかかわらず「家族の理解や協力」の割合が最も高くなっています（図表6-2-11）。

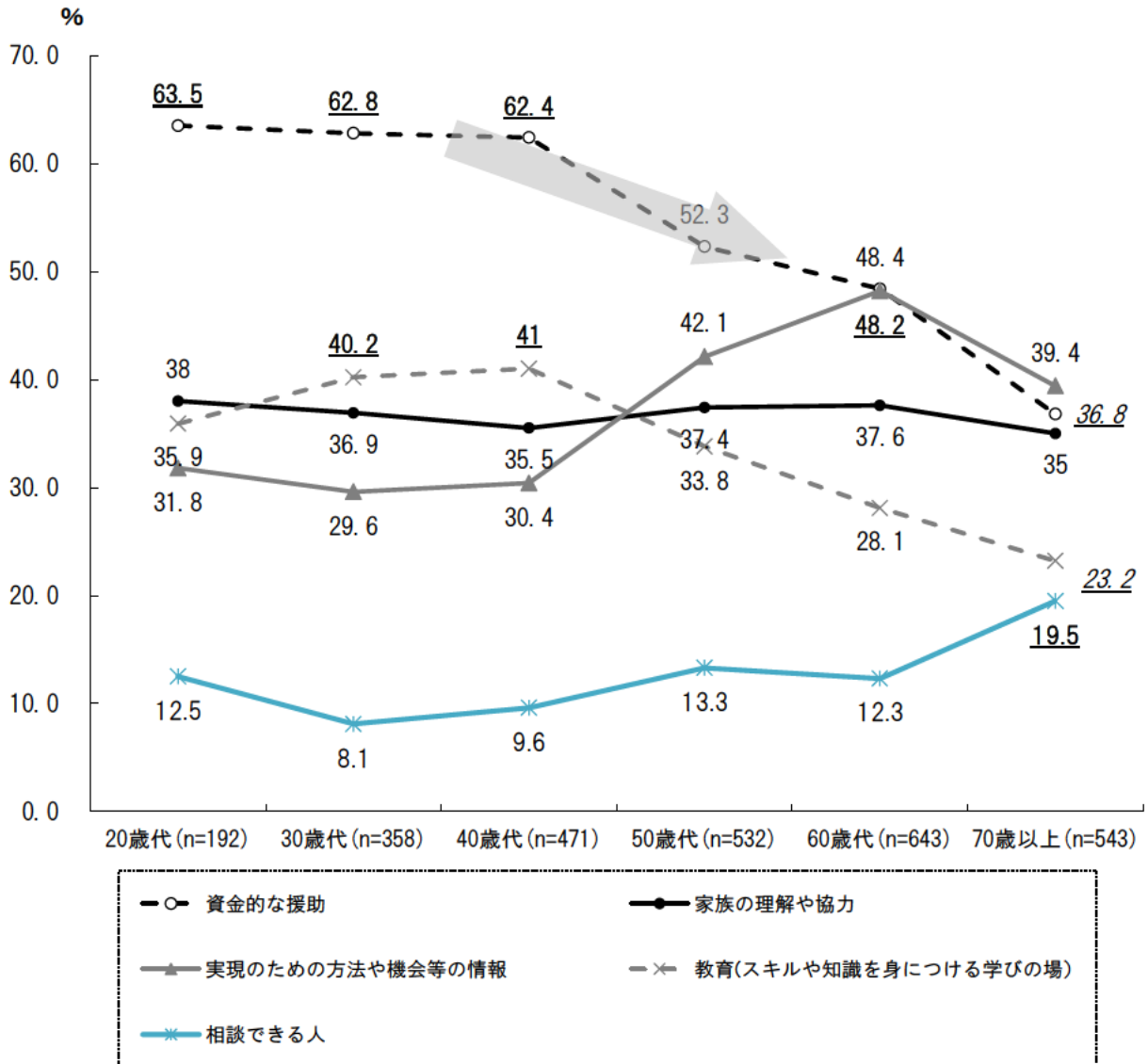
図表6-2-11 挑戦できる環境として必要な事項（肯定的回答）



【凡例】
太字の数字：各項目の割合が「整っているか」に肯定的回答した人の全体（n=1,183）の場合の割合より高く、かつ統計的に有意な差がある属性項目
~~斜字~~の数字：各項目の割合が「整っているか」に肯定的回答した人の全体（n=1,183）の場合の割合より低く、かつ統計的に有意な差がある属性項目

否定的回答をした人については、20歳代～60歳代で「資金的な援助」が最も高くなっています。「資金的な援助」は、年齢層が若いほど、特に20代～40代は、回答の割合が高くなっています(図表6-2-12)。

図表6-2-12 挑戦できる環境として必要な事項(否定的回答 年代別)

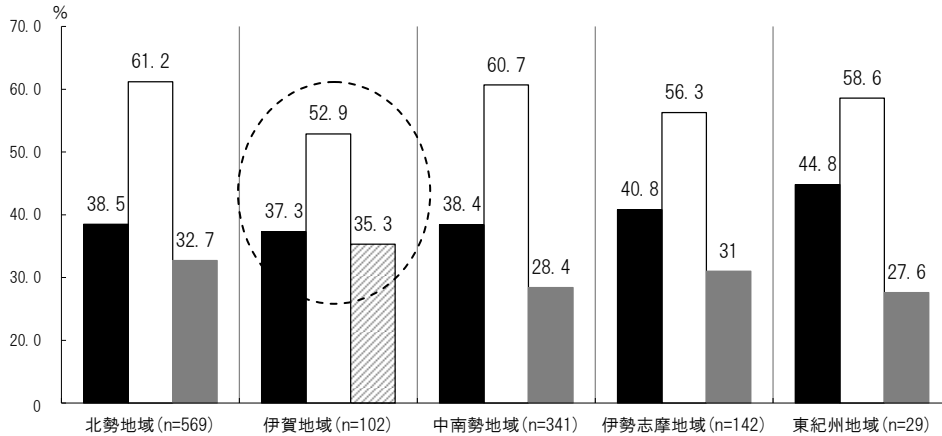


【凡例】
太字の数字：各項目の割合が「整っているか」に否定的回答した人の全体 (n=2,819) の場合の割合より高く、かつ統計的に有意な差がある属性項目
斜字の数字：各項目の割合が「整っているか」に否定的回答した人の全体 (n=2,819) の場合の割合より低く、かつ統計的に有意な差がある属性項目

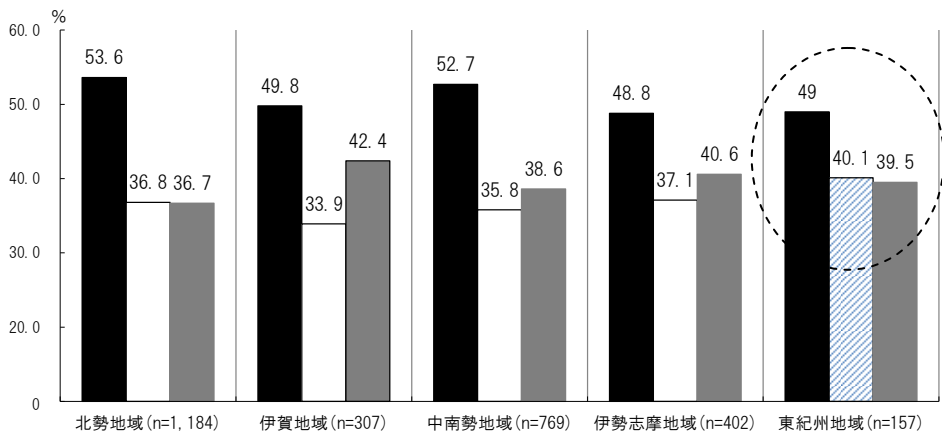
⑤地域とのクロス分析

挑戦できる環境が整っているかとの質問に肯定的回答をした人、否定的回答をした人について、それぞれ挑戦できる環境として必要な事項を地域別でみると、肯定的回答をした人では、伊賀地域で、3番目に「教育(スキルや知識を身につける学びの場)」が選択され、否定的回答をした人では、東紀州地域で2番目に「教育(スキルや知識を身につける学びの場)」が選択されていることが特徴的です(図表6-2-13、図表6-2-14)。

図表6-2-13 挑戦できる環境として必要な事項(肯定的回答 地域別)



図表6-2-14 挑戦できる環境として必要な事項(否定的回答 地域別)



【凡例】

- 黒色：資金的な援助
- 白色：家族の理解や協力
- 灰色：実現のための方法や機会等の情報
- 斜線：教育(スキルや知識を身につける学びの場)

■挑戦できる環境づくりに関する考察

- 挑戦できる環境が整っていることと、幸福感は弱い相関があります。挑戦できる環境が整っていると、幸福感も高いという傾向があります。否定的回答をする人が半数を超え、肯定的回答の2倍に達している中、挑戦できる環境が整うことで、県民の皆さんの幸福感が高まる可能性があると考えます。
- 挑戦できる環境に関して、15の幸福実感指標との相関関係をみると、比較的、相関がみられる分野として、雇用やスポーツの分野が考えられます。
- 地域、性別、収入にかかわらず、挑戦できる環境が整っているかとの質問に肯定的回答の人は、「家族の理解や協力」が最も割合が高く、否定的回答の人は、「資金的な援助」が最も割合が高くなっています。挑戦できる環境において、「資金的な援助」、「家族の理解や協力」の2つが重要であると考えます。
 - 「家族の理解や協力」は男女差が出ており、女性は男性に比べ、割合が高くなっています。女性においては、「家族の理解や協力」が得られる環境が必要とされていると考えます。
 - 「資金的な援助」については、年代が若くなるにつれ、選択した割合が高くなり、若い世代ほど必要としていることがみえてきます。
- 地域別でみると、伊賀や東紀州地域では、他地域に比べ、「教育(スキルや知識を身につける学びの場)」が、選択された順位が高くなっています。特に否定的回答の人で選択された順位が高い東紀州地域は、学びの場が不足していることが、選択に影響した可能性があります。

2. 地域への愛着を感じて住み続けること

人口減少下において県内での定住促進の重要性が増す中、P157 で掲載した「新しい豊かさ」を享受できる社会のイメージ⑥「美しい自然や多彩な文化などの魅力あふれる地域に、愛着や誇りを感じながら暮らすことができる」に関して、県民の皆さんが、愛着をもって地域に住み続けられるための重要な要素は何なのか、といったことについて、把握、分析し、今後の参考とします。

なお、P27 でみたように、幸福実感指標「自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい」と幸福度の相関関係は、15 の幸福実感指標の中で上位 3 指標に入り、比較的強いことがわかっています。

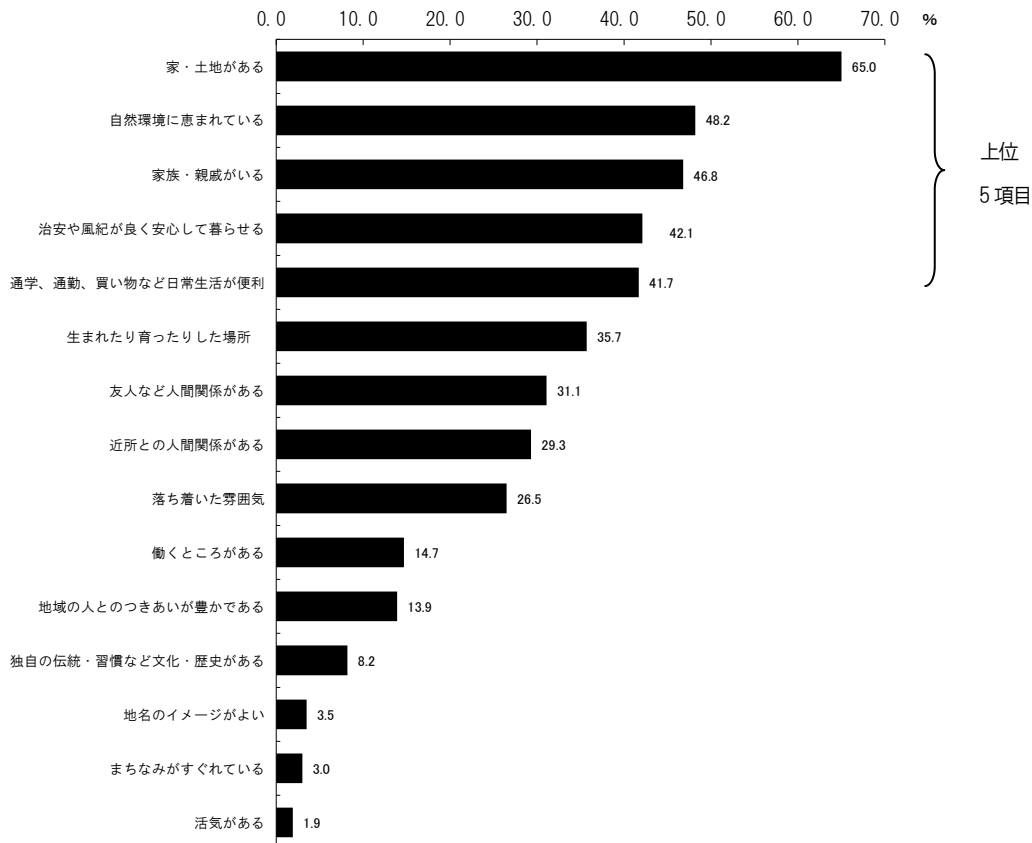
(1) 住んでいる地域に愛着を感じる要素について

「お住まいの地域について愛着を感じる要素」として選択した要素の数と、幸福実感指標「自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい」との相関係数は 0.373 であり、地域に愛着を感じる要素の数が増えることと、今後も住み続けたいと感じることは、ある程度 (0.3~0.4) の相関があります。

また、「自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたいと感じるか」に肯定的回答（「感じる」、「どちらかといえば感じる」）した人が、住んでいる地域の愛着の要素として選択した割合が 4 割を超えた上位 5 項目は、「家・土地がある」、「自然環境に恵まれている」、「家族・親戚がいる」、「治安や風紀が良く安心して暮らせる」、「通学、通勤、買い物など日常生活が便利」となっています（図表 6-2-15）。

図表 6-2-15 住んでいる地域について、愛着を感じる要素

（今後も住み続けたいと感じるか）に肯定的回答（「感じる」、「どちらかといえば感じる」）した人 n=3,828



■地域への愛着を感じて住み続けることに関する考察

- 幸福実感指標「自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい」と幸福感の相関関係は、15の幸福実感指標の中で上位3指標に入り、比較的強いものです。
- 地域に愛着を感じる要素の数が増えることと、今後も住み続けたいと感じることは、ある程度の相関があります。住んでいる地域に愛着を感じる要素が多いと、三重県に今後も住み続けたいと感じる割合が高い傾向にあります。
- 地域に愛着を感じる要素として、「家・土地がある」に次いで、「自然環境に恵まれている」、「治安や風紀が良く安心して暮らせる」、「通学、通勤、買い物など日常生活が便利」の回答割合が高いことから、県内での定住促進に向けて、「豊かな自然環境の保全と活用」、「犯罪に強いまちづくり」、「公共交通の確保と活用」などが関連する施策として考えられます。

コラム

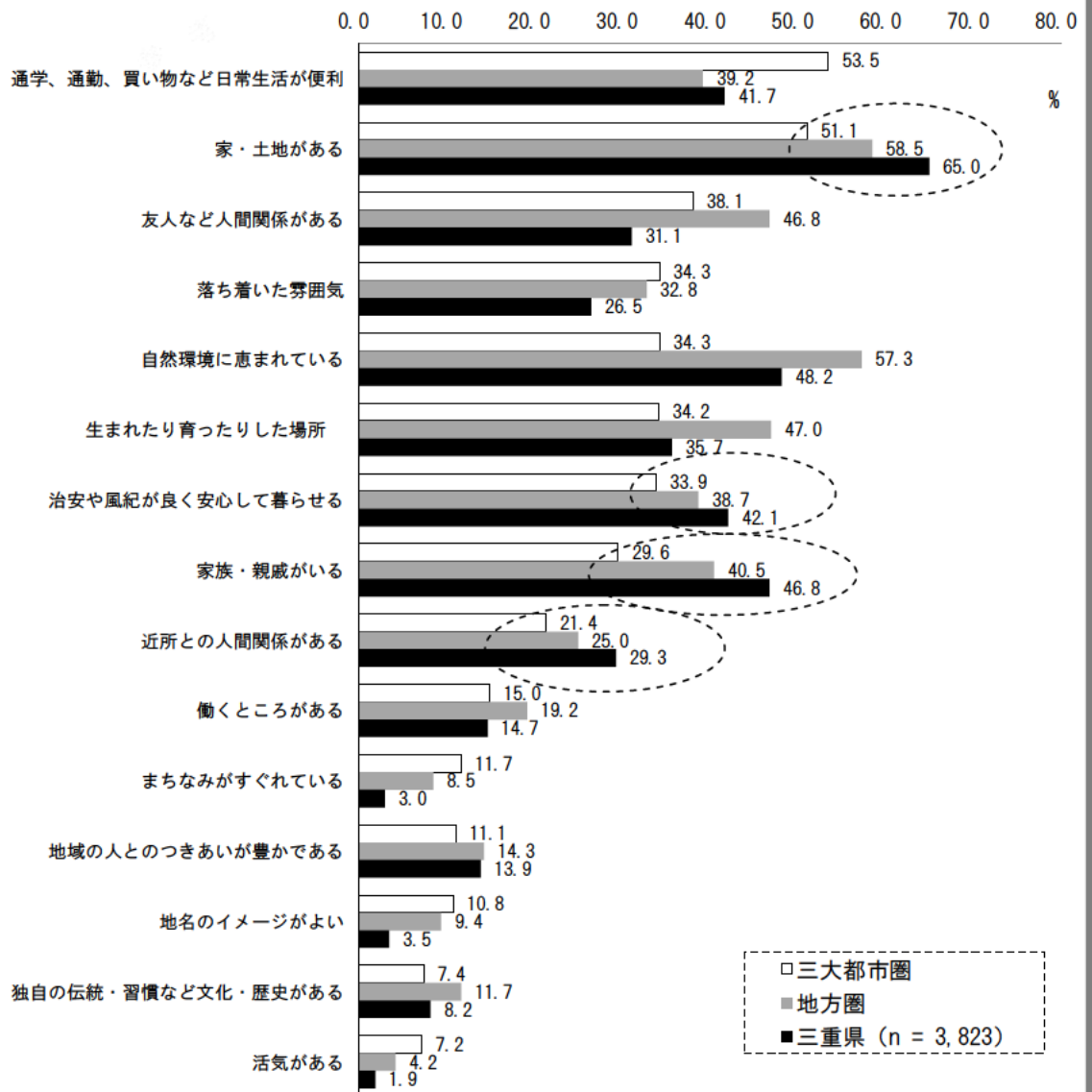
家族やご近所などの身近な“つながり”を大切にする県民性

「お住まいの地域について愛着を感じる要素」についてお聞きしたところ、全国（三大都市圏、地方圏 国土交通省調査による）（注1）と比べ、「家・土地がある」「治安や風紀が良く安心して暮らせる」「家族・親戚がいる」「近所との人間関係がある」の4項目で、三重県が高くなっています。

また、安心感のある暮らしを送るために必要な「人とのつながり」についての質問では、「近所づきあい」が最も高い割合（61.9%）となっています。

県民の皆さんが、家族やご近所などの身近な“つながり”を大切に感じていることが、みえてきます。

図表6-3-1 住んでいる地域について、愛着を感じる要素（三大都市圏及び地方圏、三重県）

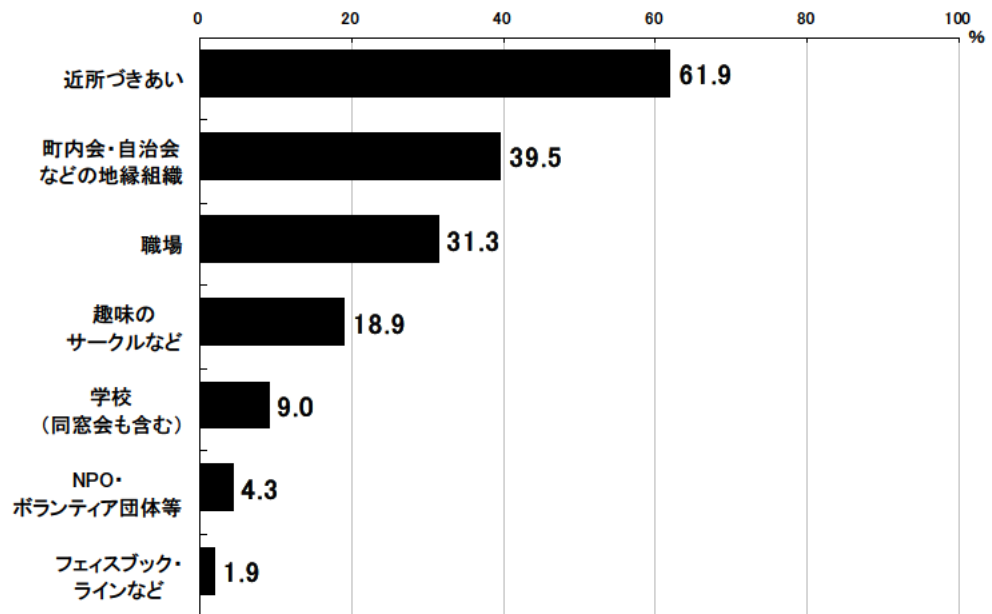


●三重県は、今回調査による。

●三大都市圏、地方圏は国土交通省調査（2010年2月6日～8日）による。三大都市圏とは、東京圏（埼玉、千葉、東京、神奈川）、名古屋圏（岐阜、愛知、三重）、大阪圏（京都、大阪、兵庫、奈良）とし、地方圏とは、その他の道県とする。

あなたは、安心感のある暮らしを送るために必要な「人とのつながり」とはどのようなものだと思いますか。次の中からあなたのお考えにもっとも近いものに2つまで○をつけてください。
(○は2つまで)

図表 6-3-2 人とのつながりとは (n=5,076)



(注1)

図表 6-3-1 で参考とした国土交通省調査 (2010年2月6日~8日)

- ◎ 質問「あなたの住んでいるまちについて、愛着を感じる要素として、あてはまるものをすべてお選び下さい。」
- ◎ 全国の満20歳以上の男女を対象。インターネットベースに実施し、4,000人の回答を得ている。地域、世代、性別による偏りが生じないように、実際の人口構成比に合わせて割り付けを行っている。

